

令和7年度 第1回技術部会

C1 8月1日(金) 全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項=====

1. 令和7年度 高校適用規則(競技規則、採点規則)の確認
2. 令和8年度 全国高校総体(兵庫)大会実施要項について
3. 令和9年度 全国高校総体(体操競技:神奈川/新体操:千葉)大会実施要項について
4. 令和7年度 全国高校選抜(体操競技:長野/新体操:福井)大会実施要項について
5. 令和8年度 全国高校選抜(宮崎)大会実施要項について
6. その他
(1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等

==== 審議結果=====

1. 令和7年度 競技規則・採点規則の全国高校適用について → **主要役員承認**
 - ・2025年版採点規則
 - ・高等学校男子適用規則
 - <https://gymhs.org/wp/wp-content/uploads/2025/01/f2d7233cc66fdf0f541b5b61a53474ca.pdf>
2. 令和8年度 全国高校総体(兵庫)大会実施要項について → **主要役員承認**
 - ・2025年版採点規則および **2026年版**高等学校男子適用規則
 - ・練習時間割り当て慣例事項に、練習前の器具を使用時のウォーミングアップを認める文言を追加する。
3. 令和9年度 全国高校総体(体操競技:神奈川/新体操:千葉)大会実施要項について
4. 令和7年度 全国高校選抜(体操競技:長野/新体操:福井)大会実施要項について → **主要役員承認**
 - ・2025年版採点規則および **2026年版**高等学校男子適用規則
5. 令和8年度 全国高校選抜(宮崎)大会実施要項について
6. その他
(1) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
① **2026年版高校適用規則について(別紙)** → **継続審議**
② **インターハイ改革に向けて** → **継続審議**

2026年版高等学校男子適用規則（案）

全国高等学校体育連盟体操部
(公財) 日本体操協会審判委員会体操競技男子審判本部

次に示すもの以外は、2025年版採点規則（日本体操協会発行）を適用する。

1. 技の認定と難度の設定認定について

~~(1) ゆかにおいて、2回宙返り技を演技内に実施しなければならない。~~

~~⇒実施しない（認定されない）場合はND-0.30~~

~~(2) 難度の設定~~

- つり輪** ・ 屈腕ほん転逆上がり倒立（屈腕後方車輪倒立）（2秒）：C難度（グループI）
・ 屈腕後ろ振り上がり倒立（屈腕前方車輪倒立）（2秒）：C難度（グループI）
※伸腕で実施する技と同一枠となる。
※肘をまげたことによる減点およびその他の減点は規則通り行う。

つり輪，平行棒，鉄棒

- ・ 前方または後方かかえ込み宙返り下り：A難度（グループIV）

2. つり輪における加点について

- つり輪** ・ グループIIおよびIIIのE難度以上の技に対して、1技につき0.1の加点をDスコアに行う。
※ただし、不認定となった技は加点の対象としない。

3. 減点について

- ゆか** ・ 2回宙返り技を終末技として実施しない場合は、ND 0.10とする。

4. 各種目の競技前ワンタッチアップについて

- (1) 30秒アップ → ゆか，あん馬，つり輪，鉄棒
(2) 50秒アップ → 平行棒
(3) 2本アップ → 跳馬

5. 禁止技について

なし（難度表に記されているジュニアルールにおける禁止技を示す●印は適用しない。）

6. 補助者について

つり輪、鉄棒に加え、跳馬、平行棒においても1名の補助者をつけることができる。

※全国高校選抜大会において、2026年版高等学校男子適用規則を適用する。

2026年版高校適用規則（案）について

1. 変更内容

1. 技の認定と難度の設定について

~~（1）ゆかにおいて、2回宙返り技を演技内に実施しなければならない。~~

⇒実施しない（認定されない）場合はND 0.30

（1）ゆかにおいて、2回(3回)宙返り技は終末技として実施しなければならない。

なお、カウントされる8技に含まれていなければならない。

⇒実施しない（認定されない）場合はND 0.10

※2025年版採点規則では、実施しない（認定されない）場合はND 0.30

2. 経緯と参考資料

経緯

- (1) 2022年版採点規則ではゆかの演技中に2回宙返りの実施が求められ、実施しない場合ND0.3。
- (2) 2022年度高校適用としては、2回宙返りの実施がない場合、ND0.1として対応。
- (3) 2025年版採点規則では、技のカウント数が10技から8技へと減ったことに伴い、ゆかの2回宙返り技は終末技として実施しなければならない。とされ、実施しない場合は、ND0.3となった。
- (4) 2025年版採点規則が国内に通達されてから一般ルール適用の高校選抜大会で適用することは時間的にも短く、怪我や故障のリスクが大きいと判断し、選抜大会においては一般ルールを適用しなかった。そのため、2025年版の高校適用規則として2回宙返りの実施がない場合、ND0.3とし、これまでのND0.1から変更した形で選抜大会をおこなった。

	2022年版採点規則	2022年版高校適用
演技中に2回宙返りを実施しない場合	(1) ND0.3	(2) ND0.1

	2025年版採点規則	2025年版高校適用
終末技として2回宙返りを実施しない場合	(3) ND0.3	(4) 演技中に2回宙返りを実施しない場合ND0.3
	2025年版採点規則	2026年版高校適用
終末技として2回宙返りを実施しない場合	(3) ND0.3	(案) ND0.1

参考資料

- ① 2024年度全国高校選抜大会（2025年3月）におけるゆかの2回宙返りに関する実施数

※適用規則 ゆかの演技内に2回宙返りを実施しない場合はND0.30

- ・ゆかの2回宙返りを実施しなかった選手(4) 58選手中 3選手：約5%
- ・終末技として2回宙返りを実施した選手 58選手中 37選手：約64%

※ 2025年全国高校総体の検証も踏まえ、2026年度の高校適用規則について検討する。